

地方独立行政法人大阪産業技術研究所
令和4事業年度の業務実績に関する評価結果
(案)

令和5年 月

大 阪 府

大 阪 市

目 次

1	地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方	1ページ
2	全体評価	2ページ
(1)	評価結果と判断理由	
	＜全体評価に当たって考慮した事項＞	
	① 法人の基本的な目標	
	② 令和4事業年度における重点的な取組	
	③ 特筆すべき取組	
	④ 課題	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3	大項目評価	
3-1-1	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）	5ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-2	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進等）	7ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-1-3	「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目 （顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援）	9ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-2	「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目	10ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	
3-3	「財務内容の改善」及び	
3-4	「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目	11ページ
(1)	評価結果と判断理由	
(2)	評価に当たっての意見、指摘等	

1 地方独立行政法人大阪産業技術研究所の評価の考え方

知事は、地方独立行政法人大阪産業技術研究所について、「地方独立行政法人大阪産業技術研究所にかかる評価の考え方について」（平成30年6月15日施行）に基づき、大阪市長と協議の上、次のとおり令和4事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

（評価の基本方針）

年度計画及び中期計画の進捗状況等を数値目標の達成状況、具体的な事例等で評価し、組織・業務等に関する改善すべき点や府市法人の統合によって可能となる取組等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上及び法人が目指す「スーパー公設試」の取組等に資することとする。

（評価の方法）

事業年度評価は、「項目別評価」と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、中期計画及び年度計画に基づく小項目・大項目により、法人による自己評価をもとに、業務実績に関する事実確認や法人からのヒアリングなどを通じて、年度計画に照らして進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価の妥当性の検証と評価を行う。

「全体評価」では、項目別評価の結果等を踏まえつつ、中期計画等の進捗状況について総合的な評価を行う。

（項目別評価の具体的方法）

項目別評価は、①法人による小項目ごとの自己評価、②知事による小項目評価、③知事による大項目評価の手順で行う。

① 法人小項目自己評価

実績報告書の小項目ごとに、I～Vの5段階で自己評価を行う。

② 知事小項目評価

法人の自己評価、目標設定の妥当性などを総合的に検証し、小項目ごとにI～Vの5段階による評価を行う。

③ 知事大項目評価

知事における小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について、S・A～Dの5段階による評価を行う。

（全体評価の具体的方法）

知事において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について評価を行う。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 令和4事業年度の業務実績に関する評価について、5ページ以降に示す「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」の1、「業務運営の改善及び効率化」及び「財務内容の改善・その他業務運営に関する重要事項」の3つの大項目について、A評価（「計画どおり」進捗している）が、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」の2の大項目について、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が、同3の大項目について、C評価（「やや遅れて」進捗している）が妥当であると判断した。
- 特に、以下の取組を評価した。
 - ① 国際規格に対応した電波暗室を備えるEMC技術開発支援センター、金属積層造形（AM）技術の高度な研究・試験評価を行う3D造形技術イノベーションセンター及び5Gなどの次世代通信材料の評価を行う先進電子材料評価センターを活用した技術支援の取組や、光スイッチ型海洋分解性の可食プラスチックの研究開発を行う「NEDOMーンショット型研究開発事業」をはじめ、多くの研究開発や技術支援に取り組むなど、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関連する計画を実施した。
 - ② 事業収入の確保、財務基盤の強化と効率的な予算執行等に計画的に取り組むほか、「財務内容の改善」「その他業務運営に関する重要事項」等に関する計画を順調に実施した。
- 以上の大項目評価の結果に加え、3ページ以降に示す法人の基本的な目標、重点的な取組等を総合的に考慮し、全体評価は「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」とした。
- なお、法人の取組について、次の意見を付記する。

コロナ禍において引き続き活動が制限される中、多様化・高度化する企業の技術課題やニーズに対応するため、技術支援、支援研究及び人材の育成等に積極的に取り組んで企業の課題を解決するとともに、「NEDOMーンショット型研究開発事業」をはじめ、競争的研究費を積極的に獲得して研究開発に取り組んでいることを高く評価した。引き続き、和泉及び森之宮センターの優れた技術力や強みを融合し、企業支援研究に取り組むとともに、顧客満足度の向上や新たなサービスの拡充、オープンイノベーションの推進による一気通貫の企業支援など、ものづくり中小企業への支援サービスの向上に積極的に取り組まれることを期待する。

住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上（5～9ページ）	1	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
	2	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
	3	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
業務運営の改善及び効率化（10ページ）		S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
財務内容の改善及びその他業務運営に関する重要事項（11ページ）		S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり

法人の基本的な目標、令和4事業年度の重点的な取組等を
総合的に考慮して・・・

＜全体評価の評価結果＞

「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

＜全体評価に当たって考慮した事項＞

① 法人の基本的な目標

- 和泉及び森之宮センターの強みを活かし、得意分野に応じた研究開発から製造までの一気通貫の支援や利用サービスのワンストップ化等のサービスの向上に取り組み、多様化・高度化する技術課題、成長産業分野への参入や海外展開に取り組むものづくり中小企業を積極的に支援する。
- 両センターのネットワークや優れた技術力を融合し、産官学連携によるオープンイノベーションの推進、成長分野・時代のニーズに対応した戦略的な研究開発、国際基準対応及び企業が求める技術者の育成の支援に取り組み、企業の成長・発展に積極的に貢献するとともに、技術支援や研究開発のポテンシャルを高め、大阪産業の成長を牽引する知と技術の支援拠点“スーパー公設試”を目指す。
- 顧客満足度の向上に取り組み、顧客の拡大や効率的な業務運営で得られた収益を更なる支援に投資、企業に還元する好循環を生み出す運営を目指す取組を推進する。

② 令和4事業年度における重点的な取組

- スマート公設試の実現に向けた研究所外からのリモート操作が可能な装置使用の実施
- 3D造形技術イノベーションセンターにおける企業支援研究の実施
- 先進電子材料評価センターにおける企業支援研究の実施
- 時代のニーズに対応した戦略的な研究の推進
- 府内中小企業への3Dものづくりの普及促進に向けた3Dものづくり技術者育成事業の実施
- 金属3D造形技術の普及促進に向けた金属AMIに関する技術者育成事業の実施
- 大阪・関西万博への参画等に向けた取組等、政策的課題への取組の推進
- 関西広域連合の広域的プラットフォーム事業を通じた技術支援の実施

- ③ 特筆すべき取組（（１）全体評価「評価結果と判断理由」の記載内容を除く）
- ・金属3D造形の各要素技術に特化したセミナーの開催
 - ・本部機能の充実による管理部門の一元化・効率化を進めるための法人経営本部の設置
 - ・両センターの採用業務の統一・効率化
 - ・安否確認システムによる両センター情報伝達訓練及び共通訓練の実施
 - ・個人情報保護法の改正等に伴う法人関連規程の整備
 - ・安全保障輸出管理規程の整備及び運用に関する検討等
- ④ 課題
- ・コロナ後を見すえた企業が求める技術者の育成及び技術情報の発信に係る取組
 - ・知的財産の出願・秘匿化の推進に係る取組

（２） 評価に当たったの意見、指摘等

- 国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）ムーンショット型研究開発事業をはじめ、競争的研究費を積極的に獲得して研究開発に取り組んでいることを高く評価する。
- 企業への技術移転等を見据えて取り組む「知的財産の出願・秘匿化件数」が目標値を大幅に下回った要因を引き続き分析し、必要な措置を講じるなど、中期目標期間における目標達成に向けて取組を進められたい。

3 大項目評価

3-1-1 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援）

(1) 評価結果と判断理由

○ 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

- ① 来所、電話、インターネット等の多様な相談を通じて企業の課題解決に取り組み、数値目標に掲げた「技術相談満足度」が目標値を上回った。また、利用者アンケートの結果に基づく業務改善・利用者サービスの質の向上に継続して取り組んでおり、「多様な企業ニーズに応える技術相談の充実」について年度計画を上回って実施していると判断した。
- ② 技術開発から製品開発まで支援する企業支援研究として、高度受託研究、共同研究及び開発研究型受託研究を着実に実施し、プレ研究制度の活用による利用者の利便向上を図るとともに、企業との契約交渉を粘り強く行って契約に結びつけるなどし、数値目標に掲げた「企業支援研究の実施件数」が目標値を上回っており、「多様な企業ニーズに応える企業支援研究の推進」について年度計画を上回って実施していると判断した。

以上2項目が計画を上回り、他の3項目も計画を順調に実施し、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

5項目全てが小項目評価のⅢ又はⅣに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は5/5となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	III 計画を順調 に実施して いる	II 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
中小企業の成長を支えるための多様な技術分野における技術支援（1～5）	5	0	2	3	0	0
合計	5	0	2	3	0	0

<小項目評価に当たって考慮した事項>

小項目評価がⅣ（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

① 多様な企業ニーズに応える技術相談の充実（1）【Ⅳ】

- 来所相談、電話相談、インターネット相談、展示会やセミナー会場ブースでの相談等を実施した。その結果、両センターで78,607件（前年度比97.6%）の技術相談に対応した。
- Web会議システムを活用したオンライン技術相談を1,149件（前年度比93.1%）行った。
- より多くの顧客ニーズを把握するため、調査方法を郵送からWebによるアンケートに変更し、調査対象者も年1回以上利用した顧客に拡大した。1月30日から2月10日までの12日間実施し、対象の利用者3,544名のうち1,021名から回答があった（回答率：28.8%）。昨年度以前と比較して2倍以上の有効回答を得るとともに、利用満足度は目標値を上回る97.7%であった。

② 多様な企業ニーズに応える企業支援研究の推進（4）【Ⅳ】

- 高度化する企業の技術開発・製品開発を支援するため、企業支援研究を実施し、高度受託研究30件（前年度比115%）、共同研究（民間企業等）34件（前年度比142%）及び開発研究型受託研究75件の合計139件で、目標値を上回る118%の達成率であった。
- 3D造形技術イノベーションセンターを活用した企業支援研究を5件実施した。
- 先進電子材料評価センターを活用した企業支援研究を4件実施した。
- プレ研究制度を24件活用した結果、企業との共同研究1件の実施や依頼試験、簡易受託研究等21件の利用につながり、プレ研究投入額約76万円に対して約469万円の事業収入を得るなどの効果を上げた。

（2） 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に又は上回って実施していると認められる。

3-1-2 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進等）

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）となる。

技術支援力の向上を目的に行う基盤研究や同研究で得られた成果の企業への技術移転を目指す発展研究を着実に実施し、研究開発を効果的に行うために科研費による研究を推進するとともに、4つの重点分野におけるプロジェクト研究、企業、大学等と行う共同研究及びJST、NEDO等の競争的研究費を獲得して行う研究に積極的に取り組み、数値目標に掲げた「競争的研究の実施件数」が目標値を上回っており、「技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進」について年度計画を上回って実施していると判断した。

以上1項目が計画を上回り、他の1項目が計画を十分に実施できていないことから、大項目評価としては、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり

<小項目評価の集計結果>

2項目全てが小項目評価のⅡ又はⅣに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は1/2となることから、小項目評価の集計は、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施している	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進(6)	1	0	1	0	0	0
産業を支える人材の育成(7)	1	0	0	0	1	0
合計	2	0	1	0	1	0

＜小項目評価に当たって考慮した事項＞

小項目評価がⅣ（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった。

（ ）は小項目評価の番号

- 技術支援のための研究力・技術力の向上に資する研究開発の推進（6）【Ⅳ】
 - ・ 研究員から提案された研究テーマを全て検討し、基盤研究を77件のテーマで実施した。
 - ・ 基盤研究で得られた成果の企業への技術移転を目指し、発展研究を3件実施した。
 - ・ 文部科学省科学研究費助成事業による研究を新規10件、継続60件、合わせて計70件実施した。
 - ・ 4つの重点研究分野における戦略的な研究を推進するため、11件のプロジェクト研究を実施した。
 - ・ 新たなプロジェクト研究「Beyond 5Gに向けた材料開発技術の高度化」を立ち上げて実施した。
 - ・ 大学等との共同研究は、新規・継続を合わせて115件実施した。
 - ・ 経済産業省、JST、NEDO等が実施する競争的研究費による研究は、新規・継続を合わせて51件実施した。

（2） 評価に当たっての意見、指摘等

- 国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）ムーンショット型研究開発事業をはじめ、競争的研究費を積極的に獲得して研究開発に取り組んでいることを高く評価する。

3-1-3 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目（顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援）

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、C評価（「やや遅れて」進捗している）となる。

コロナ禍において引き続き活動が制限される中、府市、業界団体、大学、国研究開発機関等と連携した取組を推進し、「企業支援成果事例集」を発行するなど、研究所の利用拡大に向けた情報発信を行うとともに、外部講師を招いて知的財産に関する職員研修による職員の知識習得や理解向上を図るなどの取組を行ったが、数値目標に掲げた「技術情報の発信件数」及び「知的財産の出願・秘匿化件数」が目標値を大幅に下回っており、大項目評価については、C評価（「やや遅れて」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

1項目全てが小項目評価のⅡに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は0/1となることから、小項目評価の集計は、C評価（「やや遅れて」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施している	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
顧客満足度を高める事業化までの一気通貫の企業支援（8）	1	0	0	0	1	0
合計	1	0	0	0	1	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 企業への技術移転等を見据えて取り組む「知的財産の出願・秘匿化件数」が目標値を大幅に下回った要因を引き続き分析し、必要な措置を講じるなど、中期目標期間における目標達成に向けて取組を進められたい。

3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「自主的・自律的な組織運営」において、本部機能の充実による管理部門の一元化・効率化を進めるための法人経営本部の設置や理事長アドバイザー制度を導入して外部有識者等の知見を活用する取組を進め、「職員の確保と能力向上に向けた取組」において、両センターの採用業務を統一して効率化を図り、施設担当職員1名と令和5年度の研究職員8名及び事務職員5名を新規採用し、「情報システム化の推進」に計画的に取り組むなどした。

以上3項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

3項目全てが小項目評価のⅢに該当し、Ⅲ～Ⅴの項目の割合は3/3となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	V 計画を大幅 に上回って 実施してい る	IV 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	I 計画を大幅 に下回って いる
自主的・自律的な組織 運営(9)	1	0	0	1	0	0
職員の確保と能力向上 に向けた取組(10)	1	0	0	1	0	0
情報システム化の推進 (11)	1	0	0	1	0	0
合計	3	0	0	3	0	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。

3-3 「財務内容の改善」及び

3-4 「その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

「事業収入の確保」「財務基盤の強化と予算の効率的執行」「施設の計画的な保全と有効活用等」及び「利用者の安全確保と職員の安全衛生管理の徹底」に計画的に取り組み、「危機管理対策の推進・BCPの継続的改善」において、両センターに導入した安否確認システムを使用して11月に情報伝達訓練及び3月に共通訓練を実施するとともに、「社会的責任の遂行のための取組」において、安全保障輸出管理規程の運用に関する検討を行い、研究部等で生じた事例に適切に対処するなどした。

以上5項目全てが計画を順調に実施しており、中期計画を着実に進捗していることから、大項目評価については、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや 遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

<小項目評価の集計結果>

5項目全てが小項目評価のⅢに該当し、ⅢからⅤの項目の割合は5/5となることから、小項目評価の集計は、A評価（「計画どおり」進捗している）となる。

分野 (小項目番号)	評価の 対象項目数	Ⅴ 計画を大幅 に上回って 実施してい る	Ⅳ 計画を上回 って実施し ている	Ⅲ 計画を順調 に実施して いる	Ⅱ 計画を十分 に実施でき ていない	Ⅰ 計画を大幅 に下回って いる
事業収入の確保、財務 基盤の強化と予算の効 率的な執行（12）	1	0	0	1	0	0
施設の計画的な保全と 有効活用等（13）	1	0	0	1	0	0
利用者の安全確保と職 員の安全衛生管理の徹 底（14）	1	0	0	1	0	0
危機管理対策の推進・ BCPの継続的改善 （15）	1	0	0	1	0	0
社会的責任の遂行のた めの取組（16）	1	0	0	1	0	0
合計	5	0	0	5	0	0

(2) 評価に当たっての意見、指摘等

- 年度計画を順調に実施していると認められる。